

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	467000156
法人名	医療法人 佑志会
事業所名	グループホーム 花々館
訪問調査日	平成 21 年 3 月 27 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 20 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	467000156
法人名	医療法人 佑志会
事業所名	グループホーム 花々館
所在地	鹿児島県日置郡伊集院町徳重190番2 (電話) 099-273-8787

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年3月27日	評価確定日	平成21年4月20日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19	常勤 17 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	18.1 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建て,	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円(水道光熱費)	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 20,000 円	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	円
または1日当たり 円				

(4) 利用者の概要(2 月 1 日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	5 名	要支援2	名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	守屋病院 ・ 藤井歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街に立地し、近くには神社、大型スーパー、伊集院駅、病院等があり暮らしやすい環境である。管理者は開設当時、花を愛でるように穏やかな優しい気持ちで過ごせるホームにしたいと「花々館」と命名された。管理者と職員は入居者の心の声を大切にするを理念に掲げ、本人本位の暮らし方を考えながら日々協力し取り組んでいる。医療法人が母体であり医療連携の強化を図り介護度の高い入居者を多く抱えながらも24時間体制の健康管理を行っている。職員はケアサービスの質の向上を目指し4つの専門委員会を立ち上げ年間計画にそった学習会を毎月交互に開催するなど画期的なホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は鍵をかけないケアの実践であった。運営推進会議で改善策の話し合いを行い、日中は玄関に鍵をかけない取り組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者や職員は日頃取り組んでいるサービスについて自ら振り返り点検する機会と捉え、1ヶ月間かけて職員間で意見を出し合ったりケアマネと話し合ったり全員で取り組みをしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は2カ月に1回行政・自治会長・家族代表・ホーム関係者が集まり開催されている。入居者の状況、行事实施報告、職員異動、事故報告、苦情報告、職員研修、今後の活動予定等報告されている。会議の都度議題(外部評価結果、インフルエンザ対策、地域行事情報、地域住民参加火災訓練...)が出され各立場からのアドバイスや意見が活発に行われ、それらを活かす取組がなされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族の意見、要望、苦情受付については玄関に意見箱や居室に家族との連絡帳など設置し、契約書に苦情常設窓口、苦情処理体制・手順を明記している。それらの受付についての申し出は無きに等しい。主に面会時での意見、要望があり、そのまま各職員に伝達簿を通じ反映させるもの、管理者・ケアマネ・職員で話し合い反映する場合等内容によって対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民として自治会に加入し清掃・運動会・その他の公民館行事に参加し、その他妙円寺参り、六月灯、日置市文化祭、太陽ガス祭と地域行事に参加している。ホーム主催の夏祭りには地域住民へ呼びかけをしたり、中学生の職場体験学習の受け入やホームの行事に合わせて音楽や踊りのボランティアの受け入れをする等地域と活発な交流をしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームが地域密着サービスに移行し、事業者は平成19年に今までの理念を見直し、利用者の地域生活の継続支援を目指した理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念の唱和を行い職員の意識を高め業務に就くよう図っている。ホールや各居室に理念を掲げ、サービス提供場面においても理念が意識されるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民として自治会に加入し、清掃、運動会等公民館主催の行事、妙円寺参り、六月灯、文化祭、太陽ガス祭と地域行事に参加している。ホーム主催の夏祭りには地域住民に参加を呼びかけ、中学生の職場体験受け入れ、ホーム行事に合わせたボランティア受け入れを行う等交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価や自己評価の意義を職員に説明し、全職員に自己評価票を回覧し1ヶ月間かけて全員で取り組みを行い、サービスの質の確保に活かすよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回行政、自治会長、家族代表、ホーム関係者で開催している。入居者状況、実施工事、職員異動、事故、苦情、職員研修などの報告を行っている。その他の問題についても各立場からのアドバイスや意見、相談など活発な討議が行われそれらをサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日置市の主催する研修会や事業説明会には積極的に参加し、職員とは顔馴染みで介護保険業務遂行の連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	各入居者には担当職員がいて、ご家族には毎月担当者が入居者の日頃の暮らしの様子を書き、1ヶ月間の金銭収支の明細と共に報告している。ホーム便りは季節毎発行し(行事報告や職員異動、お知らせ、病気についての豆知識など掲載)配布している。面会時や電話でも随時報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置や居室に備え付けの連絡帳、苦情相談窓口の明示など意見や苦情を表せる機会を設けている。面会時に直接意見を聞く姿勢を重要視しており、問題の大きさで解決の仕方も多様に対処し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動が入居者にダメージを与えることを理解し、異動を防止するため職員の採用には経験者を優先したりスタッフの悩みや相談に応じる体制を整えたり努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修、法人内研修、ホーム内研修と年間の学習計画が立てられ計画にそって学習がなされている。ホーム内では学習委員会、身体拘束委員会、感染対策委員会、防災対策委員会と4つの部門を立ち上げ毎月交代で担当し学習がなされ、独自の取り組みで質の向上を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	薩摩半島地区認知症グループホーム連絡協議会に加入し、2～3か月ごとの研修会に管理者、ケアマネ、職員2名(交代で)参加し勉強をしている。系列のグループホームとは年間4回合同で行事を行っている。	○	日置市のグループホーム連絡協議会もあるので、職員が他の同業者と意見交換や相互訪問等の交流ができるよう図られ活動を通じてサービスの質が向上することを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みがあった時点で先ず管理者・計画作成管理者は自宅を訪問して情報収集を行い1回目の見学対応に備える。1回目の見学でご家族・本人にホームの部屋、トイレ、浴室、雰囲気など見てもらい、2回目の見学時は、席についての体験をしてもらい安心して入居できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を介護される側といった限定的な立場に置かず常に人生の先輩として尊敬の気持ちで接し、包丁の使い方、子育てのアドバイス、昔の体験話など教わる場面や励まされる場面を持ち一緒に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人やご家族からアセスメントし、入居してからはスタッフに行動記録を書いてもらい本人の言葉、態度からアセスメントの確認をしている。意志の疎通が困難な場合はご家族や関係者からの情報収集に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議では担当職員を中心に、日々のカンファレンスや月1回のスタッフ会議の情報、本人やご家族との日頃の思いや意見等情報交換しながらスタッフ間で介護計画の作成が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりの介護計画の内容を一日の時間表に書き込み、毎日スタッフは介護記録に経過を書きながら計画にそっているか変化がないか確認できるようにしている。状態に変化があった場合はその都度見直しを行い、変化がない場合であっても半年に1回は見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携により、緊急時にも対応できるように24時間体制である。本人やご家族の状況に応じて通院に付き添ったり医療機関との情報交換をしたり、リハビリの送迎、お墓参りの支援など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どのかかりつけ医は母体の病院である。その他歯科や他科の診療受診についても家族と協力しながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りについての説明を行い、同意書ももらっている。重度化した場合や急変時にはその都度ご家族や医療機関、看護師を交えて話し合いを持ち全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者はスタッフ会議や勉強会において入居者のプライバシーを損ねる言葉かけや対応について職員に意識づけをしている。職員の入職時に秘密保持を含む雇用契約を結び、入居者の個人情報の漏えいに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れにそった決まりはあるが、その日の気分や健康状態に応じ朝食・夕食・入浴時間などその人のペースに合わせたり、好きな煙草、コーヒー、缶ビール等嗜好の支援、買い物や散歩の支援など柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養士の作成したものにそって作るが、本人の食べやすい調理法にしたり、おいしそうな盛り付けの工夫をしたり、職員と一緒に食事をしたり、お誕生日には本人の希望するメニューが取り入れられる等食事を楽しむ支援がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	金曜日の散歩の日以外は本人の希望する入浴時間に対応し、ミストシャワー浴ができたり、一人ひとりお湯の入れ替えをしたり、音楽を流したり、夏は冷えた麦茶の準備をするなど入浴を楽しめるよう支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の出来る事、やりたいことを把握して張り合いになる役割の支援をしている。毎月楽しい行事ができるよう年間計画が作成されている。日々の生活においても、日記をつけたり、犬を飼ったり、しりとり遊びや歌、カルタ取り等笑いの場面を工夫し喜びの日々になるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2～3回は病院でのリハビリを受けに出かけている。又金曜日は散歩の日と決め、天候や体調に配慮しながら希望に応じた外出の取り組をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は住宅地の道路沿いにあり車の通行が多いため鍵をしていた。毎年外部評価の改善で鍵をかけないケアの指摘があり、昨年の外部評価後、運営推進会議で討議し、その後はドアにブザーを設置し鍵をかけないで対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	6月、12月と年2回消防署の協力を得て防災訓練を実施し、ホーム独自でも防災委員会が中心になり毎月1回入居者と共に防災自主訓練を実施している。運営委員会を通じ21年度から徳重消防分団への協力依頼がなされている。	○	消防訓練に徳重の消防分団に参加してもらう計画を実現されると共に、近隣の住民にも参加の呼びかけをし、万々に備え協力が得られるよう働きかけていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談し、カロリーや栄養バランスを考慮した献立が作成されている。食事・水分摂取量を記録し、定期的な体重測定を行い個々の状態を管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから町が見渡せる造りで開放感がある。ホールは花々館に相応しい愛らしいクロス張りで明るい雰囲気である。桜の折り紙作品や花を生け季節感を取り入れている。加湿器や個別の冷蔵ボックスなど設置し居心地よい生活の工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	パンフレットには入居に際しての持ち込み用品について、思い出の品や使い慣れた品物の効果が書かれており、本人が過ごしやすい品物を持ち込みその人らしい居室になっている。		